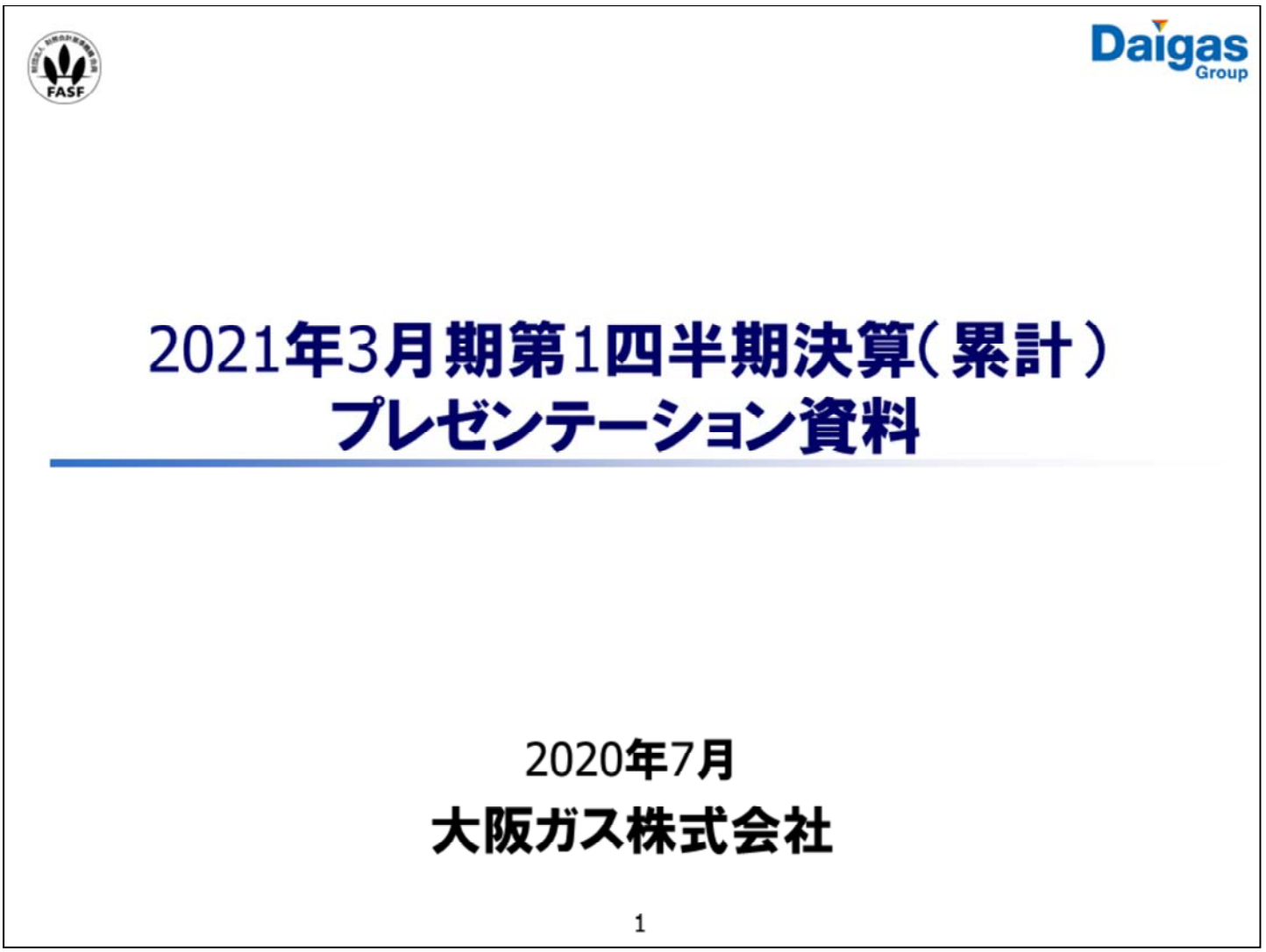



大阪ガスの藤田でございます。

本日は、お忙しいところ、当社の2021年3月期第1四半期決算電話会議説明会にご参加いただきありがとうございます。

また、平素は、当社事業につきご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

それでは、ただ今より、2021年3月期第1四半期決算について、当社ホームページで開示しております、プレゼンテーション資料に沿って、説明させていただきます。

4ページをご覧ください。

# 目次

## Ⅰ. 21.3期第1四半期決算と21.3期見通しの概要


- 21.3期第1四半期決算及び21.3期見通しのポイント － 4
- 21.3期見通しについて － 5
- 21.3期第1四半期決算の対前年比較 － 6
- 21.3期修正見通しの対前回見通し比較 － 7
- 21.3期修正見通しの対前年比較 － 8
- 21.3期第1四半期の成長投資実績 － 9
- 21.3期第1四半期の主なトピックス － 10


## Ⅱ. 21.3期第1四半期決算と21.3期見通し


- 21.3期第1四半期実績 － 12-14
- 21.3期見通し － 15-19
- 21.3期第1四半期販売実績 － 20
- 21.3期販売見通し － 21
- 家庭用ガス販売 － 22
- 業務用等ガス販売 － 23


## Ⅲ.参考資料


- 21.3期第1四半期の差異(対前年) － 25-26
- 21.3期見通し差異(対前年) － 27-28
- 年度見通しに対するリスク要因 － 29

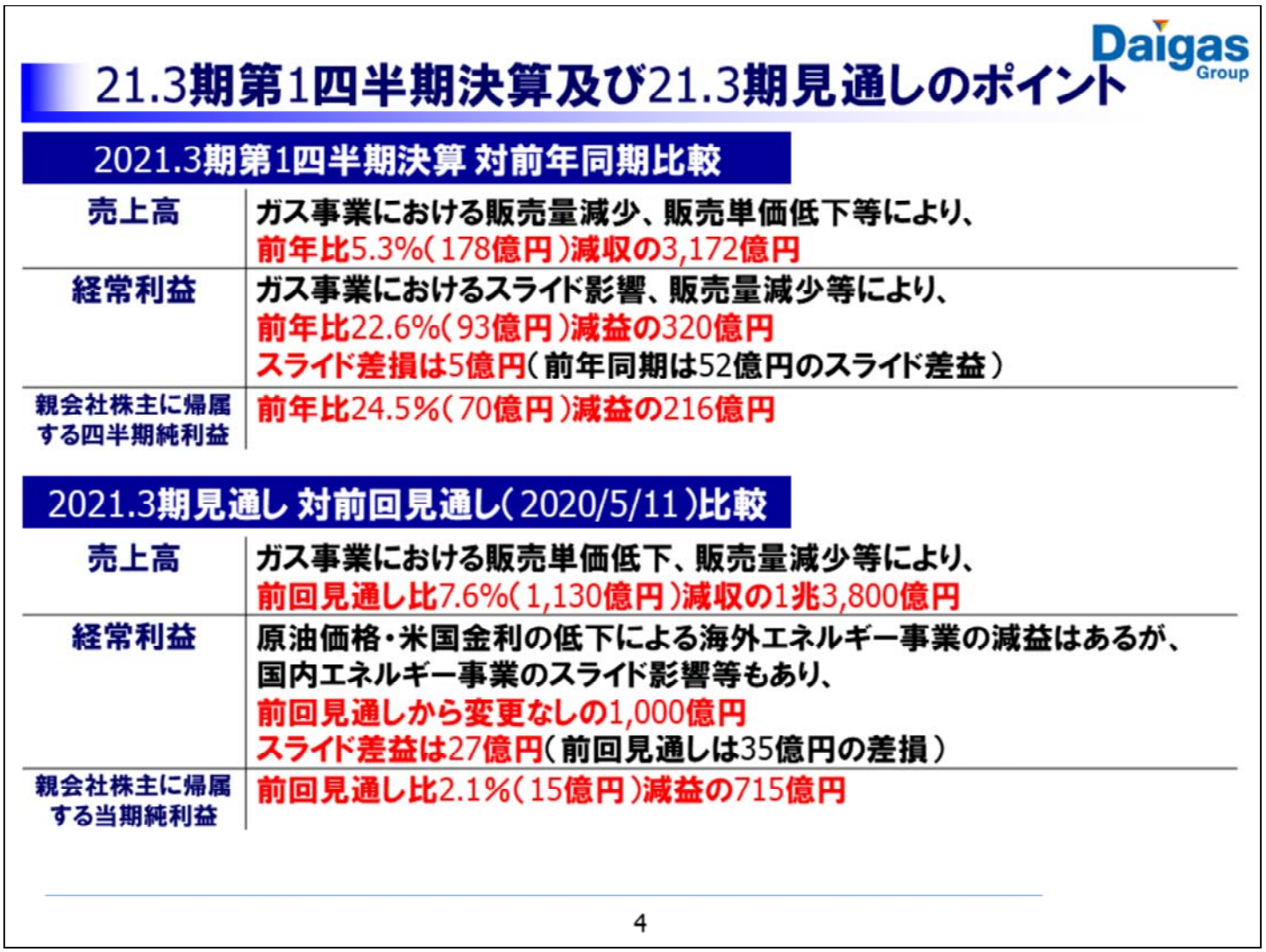

**インターネットを通じて定期的に経営情報を発信しています** ：下記のURLで、決算短信、アニュアルレポート、説明会資料等を閲覧・ダウンロードすることが可能です。https://www.osakagas.co.jp/company/ir/

**「見通し」に関する注意事項** ：このプレゼンテーションには、将来の業績に関する見通し、計画、戦略などが含まれており、これらは現在入手可能な情報から得られた当社グループの判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績の見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、日本経済の動向、急激な為替相場・原油価格の変動並びに天候の異変等があります。

**ガス販売量に関する注記** ：全て、基準熱量を45MJ/m³として、表記しています。

**連結ガス販売量に関する注記** ：名張近鉄ガス・豊岡エネルギー・新宮ガスは12月決算です。

# I. 21.3期第1四半期決算と21.3期見通しの概要




4ページには決算のポイントを簡単にまとめております。

当期の連結経常利益は、ガス事業におけるスライド影響や販売量の減少等により、前年から93億円減益の320億円となりました。
親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年から70億円減益の216億円となりました。
通期見通しについては、原油価格・米国金利の下落による海外エネルギー事業の減益、国内エネルギー事業におけるスライド影響等の足元の状況を反映していますが、連結経常利益について前回見通しからの変更はありません。
親会社株主に帰属する当期純利益は、前回見通しから15億円減益の715億円の見通しです。

# 21.3期見通しについて

- 新型コロナウイルス感染症拡大による経済活動の縮小、原油価格下落等の業績への影響を合理的に算定することは困難であり、1Q時点で顕在化した影響、原油価格の前提見直しによる影響のみを織り込み見通しを修正
- 今後、業績への影響が合理的に算定可能となった時点で見通しの適宜修正・公表を行う

【新型コロナウィルス感染症の拡大が業績に与える影響】

| | 21.3期 1Q | 21.3期 通期見通し（織り込み内容と今後の影響の可能性） |
|---|---|---|
| 国内エネルギー事業 | □ 販売単価、原材料費に反映される原油価格は概ね想定通り | □ 原油価格下落と2Q以降の原油価格の前提見直しによるスライド差益を織り込み* |
| | □ 家庭用ガス・電力小売販売量への大きな影響なし | □ 特になし |
| | □ 業務用等ガス販売量は前年から16.3%減少<br>□ 金属・化学・飲食・ホテル業種を中心に減少 | □ 業務用等ガス販売量見通しは、1Q実績をもとに、前回見通しから一定程度の減少を織り込み<br>□ 景気低迷の継続により影響がさらに拡大する可能性あり<br>□ LNG需給緩和によるLNG転売損失が発生する可能性あり |
| | □ ガス離脱、電力獲得ともにペースが鈍化 | □ 営業活動縮小により器具・サービス関連差益が減少する可能性あり |
| | □ エネルギーの安定供給は維持 | □ 引続き感染防止対策の徹底やLNG調達国の分散等により、エネルギーの安定供給を維持 |
| 海外エネルギー事業 | □ 上流事業は現時点で大きな影響なし<br>□ 米国金利低下に伴うヘッジ会計適用外デリバティブの時価評価による減益影響が発生 | □ 原油価格下落と2Q以降の原油価格の前提見直しによる上流事業の業績低下*、1Q時点の米国金利の低下影響を織り込み<br>□ エネルギー価格低下により中下流事業の業績が低下する可能性あり |
| ライフ&ビジネスソリューション事業 | □ 一部事業（フィットネス事業）において業績が低下 | □ 1Q時点のフィットネス事業における減益を織り込み<br>□ 経済活動縮小により、LBS事業全般において業績が低下する可能性あり |
| 成長投資 | □ 建設工事の一部遅延が発生 | □ 建設工事の進捗遅延の拡大、新規案件に対する投資活動への影響が発生する可能性あり |

*原油価格▲1$/bblの変化に対し、21.3期の連結経常利益は＋約6億円変動する可能性がある

5

5ページに通期見通しの考え方、および新型コロナウイルス感染症拡大が業績に与える影響をまとめています。

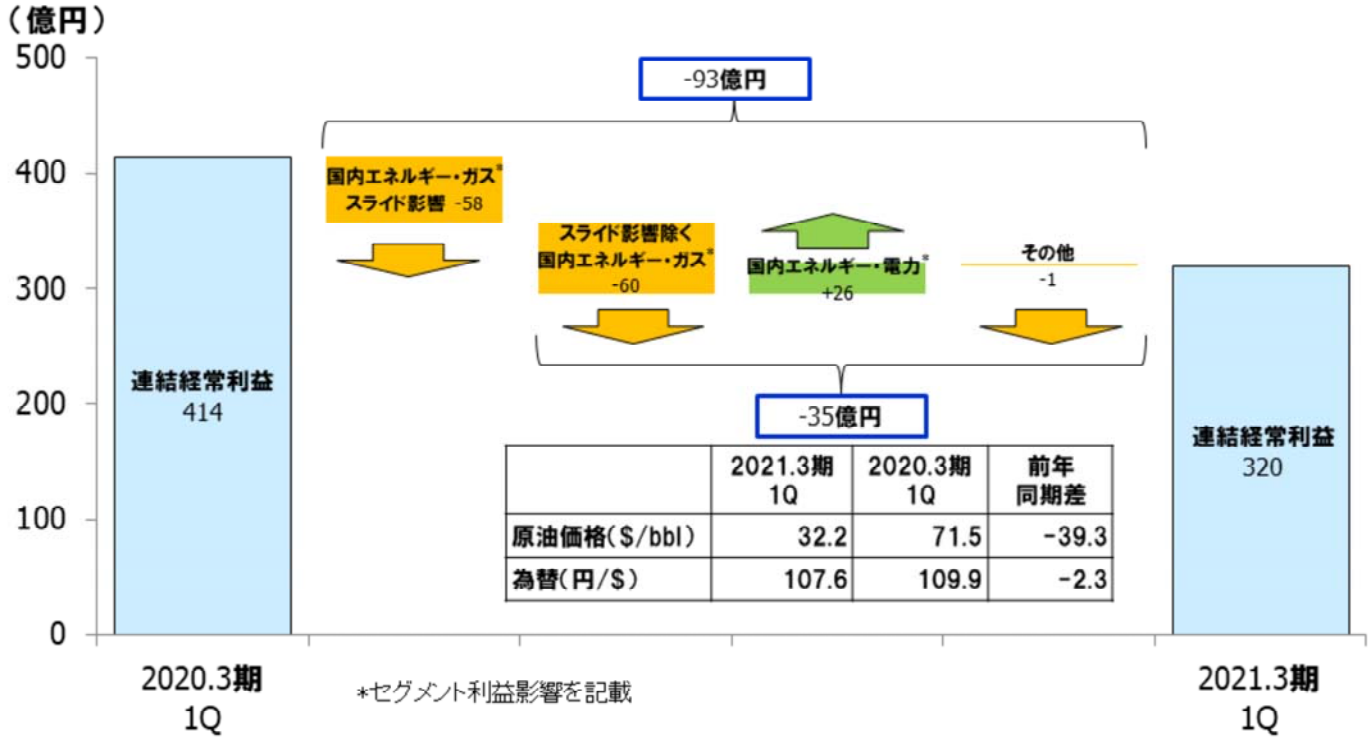
今回の見通し修正において、新型コロナウイルス感染症拡大による経済活動の縮小、原油価格下落等の業績への影響を現時点で合理的に算定することは困難ですので、当第1四半期に顕在化した影響及び原油価格の前提見直しによる影響のみを織り込んでいます。

具体的には、当第1四半期において、業務用等ガス販売量の大幅な減少、米国金利の低下に伴うフリーポートLNGプロジェクトの減益、フィットネス事業の業績低下等が顕在化しています。原油価格の下落については、販売単価・原材料費への反映時期の点から当第1四半期において大きな影響はありませんが、第2四半期以降に国内エネルギー事業におけるスライド影響、海外上流事業の減益等を業績に織り込んでいます。

今後、新型コロナウイルス感染症拡大の動向により、5ページ右側に記載している影響が発生する可能性もありますが、業績への影響が合理的に算定可能となった時点で見通しの適宜修正・公表を行います。

# 21.3期第1四半期決算の対前年比較

□ 2021年3月期第1四半期の連結経常利益は、国内エネルギー・ガス事業におけるスライド影響、ガス販売量減少による減益等により、対前年-93億円の320億円



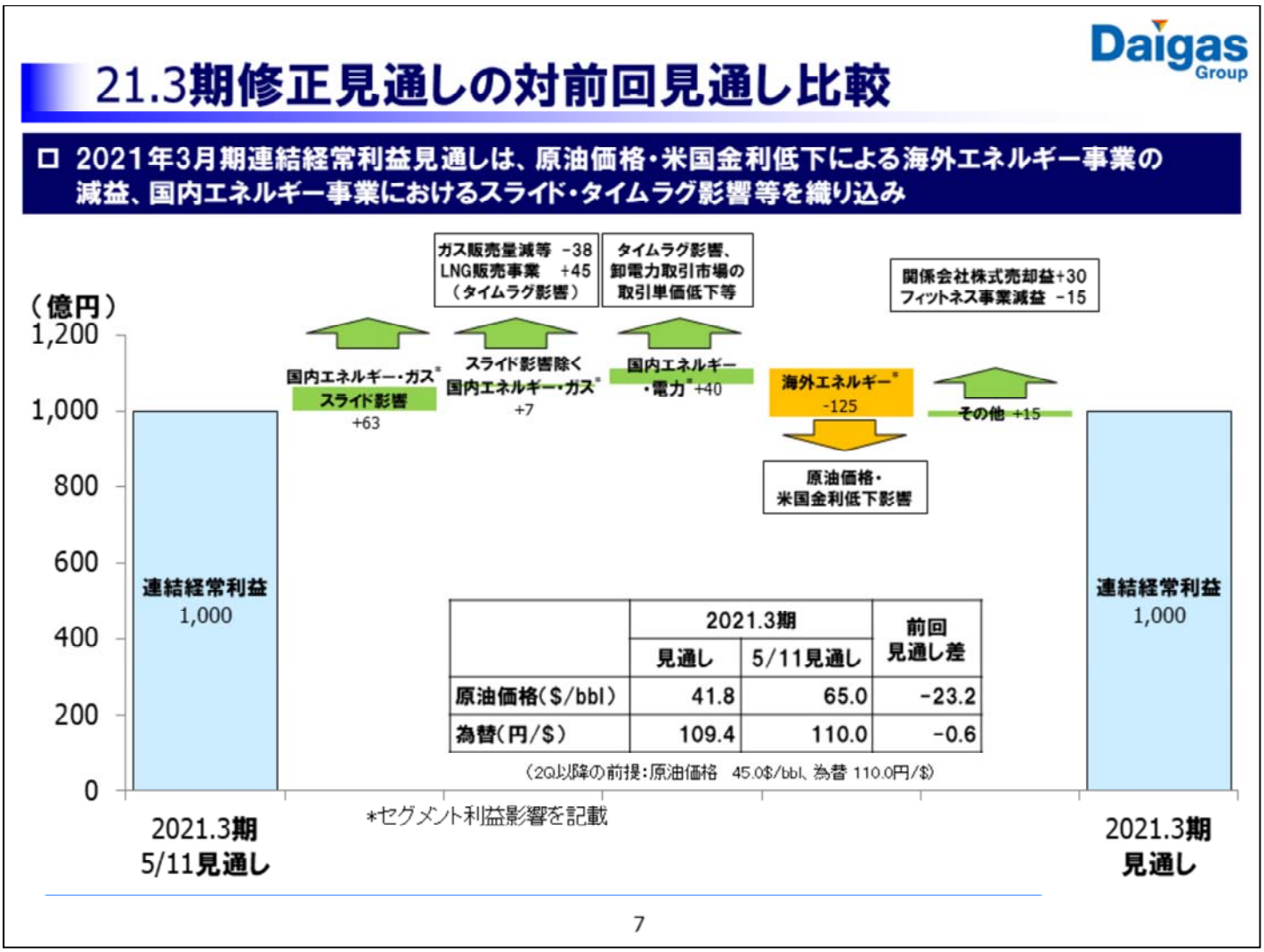

| | 2021.3期 1Q | 2020.3期 1Q | 前年同期差 |
|---|---|---|---|
| 原油価格($/bbl) | 32.2 | 71.5 | -39.3 |
| 為替(円/$) | 107.6 | 109.9 | -2.3 |

6

6ページに、2021年3月期第1四半期の連結経常利益について、前年との比較をまとめています。

当期の連結経常利益は、スライド影響を除きましても、ガス販売量の減少、LNG販売のタイムラグ影響が、国内エネルギー・電力事業の増益を上回ったこと等により、前年から35億円の減益となりました。

海外エネルギー事業は概ね前年並みとなりましたが、ヘッジ会計適用外のデリバティブ時価評価影響▲35億円を除くと、フリーポートLNGプロジェクト、サビン社の利益貢献等により、前年から着実に増益しています。



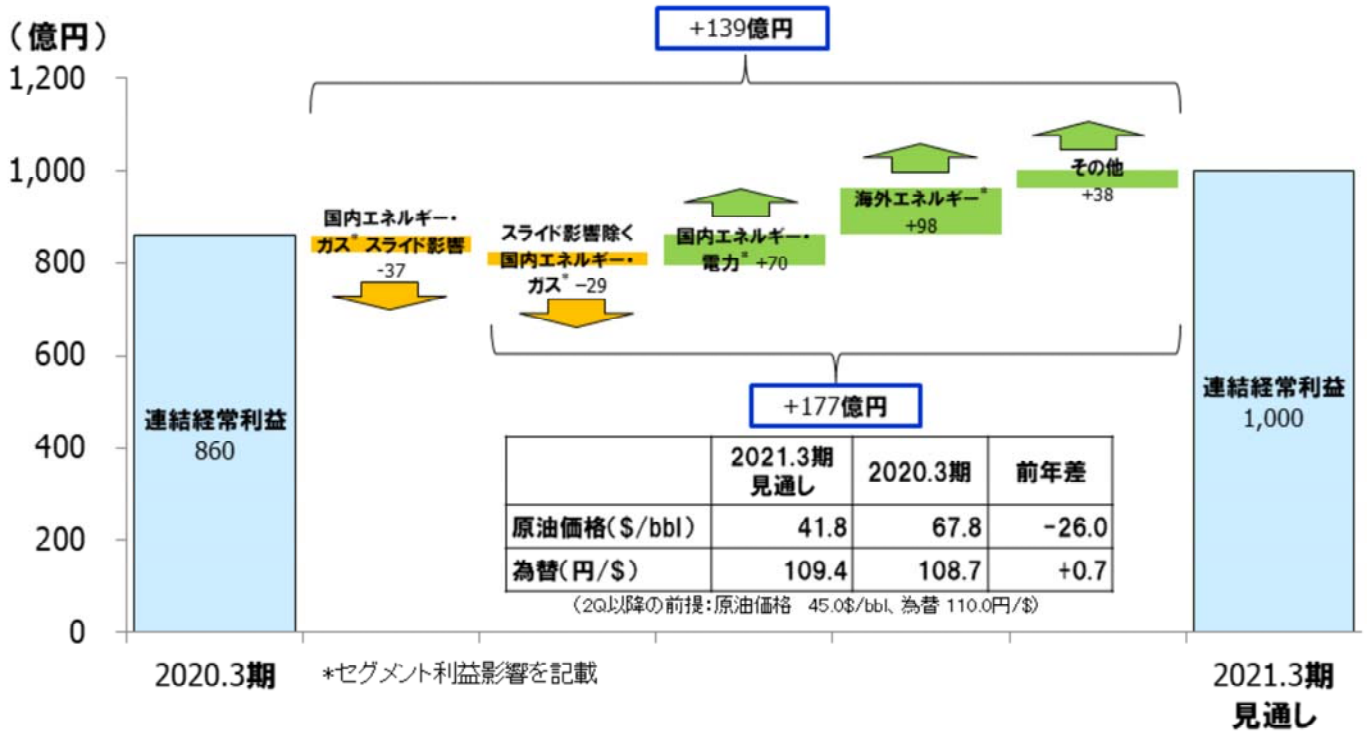

7ページは、連結経常利益通期見通しの前回見通しとの比較になります。

先ほどご説明した通り連結経常利益は前回見通しから変更ありませんが、セグメント利益、営業外損益等を修正しています。

国内エネルギー・ガスセグメント利益は、原油価格下落によるスライド影響を織り込んでいます。スライド影響を除くと、LNG販売事業におけるタイムラグ影響はありますが、ガス販売量の減少等もあり、概ね前回見通し並みとしています。
国内エネルギー・電力セグメント利益は、原油価格下落によるタイムラグ影響、卸電力取引市場における取引価格の低下等により、前回見通しから増益としています。
海外エネルギーセグメント利益は、原油価格下落による上流事業の減益、米国の金利低下によるフリーポートLNGプロジェクトの減益により、前回見通しから減益としています。
その他、フィットネス事業の減益や営業外収益としてカナダ・オンタリオ州にある大型太陽光発電事業オーロラ・ソーラープロジェクトの権益を保有する関係会社の株式売却による増益を織り込んでいます。

# 21.3期修正見通しの対前年比較

□ 2021年3月期の連結経常利益見通しは、フリーポートLNGプロジェクトの商業運転開始、北米上流事業会社の新規連結による海外エネルギー事業の増益等により、対前年+139億円の1,000億円




| | 2021.3期 見通し | 2020.3期 | 前年差 |
|---|---|---|---|
| 原油価格($/bbl) | 41.8 | 67.8 | -26.0 |
| 為替(円/$) | 109.4 | 108.7 | +0.7 |

（2Q以降の前提：原油価格　45.0$/bbl、為替 110.0円/$）

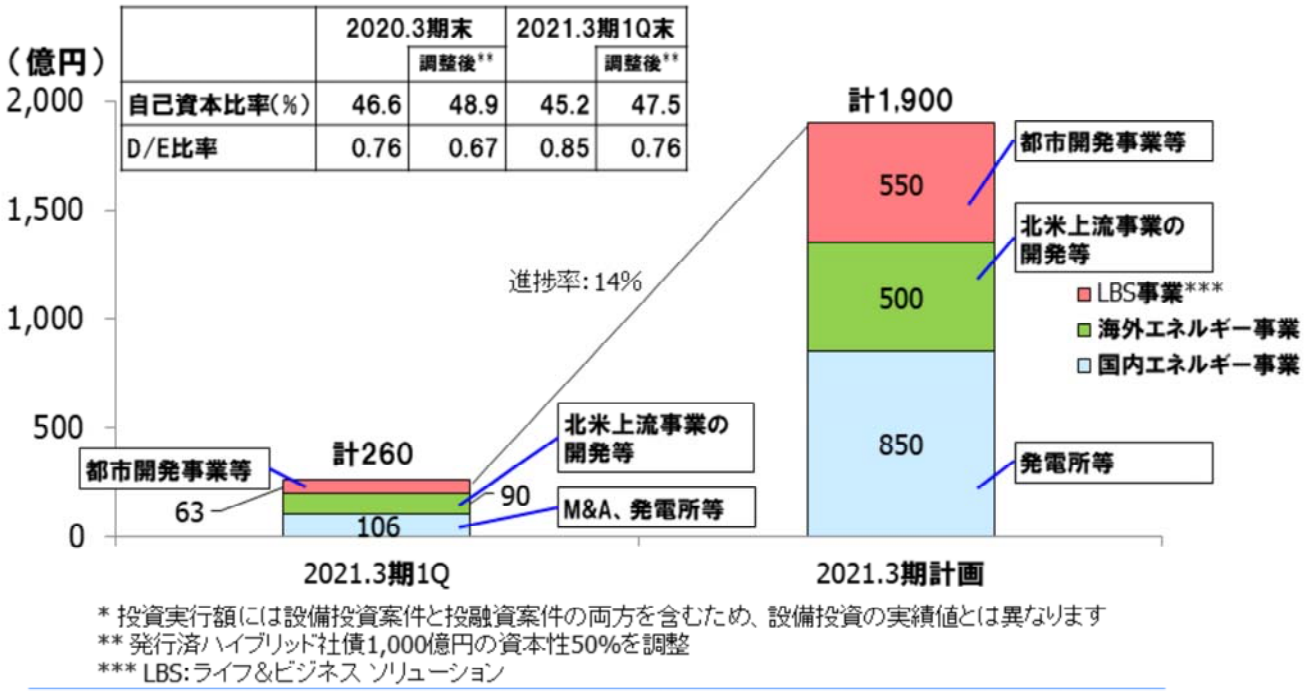
8

修正見通しと前年との比較を、8ページにまとめていますので、またご覧ください。

# 21.3期第1四半期の成長投資実績

- 2021年3月期第1四半期は、国内エネルギー事業におけるM&Aや発電所、海外エネルギー事業における北米上流事業の開発等に260億円の成長投資を実行
- 財務健全性は、新型コロナウイルス感染症の拡大影響に備えた資金調達等により一時的に低下

| | 2020.3期末 | 2020.3期末 調整後** | 2021.3期1Q末 | 2021.3期1Q末 調整後** |
|---|---|---|---|---|
| 自己資本比率(%) | 46.6 | 48.9 | 45.2 | 47.5 |
| D/E比率 | 0.76 | 0.67 | 0.85 | 0.76 |




* 投資実行額には設備投資案件と投融資案件の両方を含むため、設備投資の実績値とは異なります
** 発行済ハイブリッド社債1,000億円の資本性50%を調整
*** LBS:ライフ&ビジネス ソリューション

9

9ページは成長投資になります。

2021年3月期第1四半期は、国内エネルギー事業におけるM&Aや発電所、海外エネルギー事業における北米上流事業の開発等に260億円の成長投資を実行しました。

2020年6月末時点において、財務健全性指標である自己資本比率は45.2%、D/E比率は0.85となりました。一部について資本性が認められるハイブリッド社債を考慮すると、自己資本比率が47.5%、D/E比率が0.76となりました。新型コロナウイルス感染症の拡大影響に備えた手元資金の調達等により現預金が増加したことで、一時的に財務健全性が低下していますが、これを除くと中期経営計画で掲げた自己資本比率50%程度、D/E比率0.7程度を維持しています。

今後も財務健全性とのバランスを確保しながら、企業成長に向けた投資を進めていきます。

# 21.3期第1四半期の主なトピックス

| | |
|---|---|
| 4月 | ➢ 「扇島都市ガス供給株式会社」の都市ガス製造・供給設備の商業運転開始について<br>➢ 大阪ガスとNTT ComがAI自動音声応対によるコンタクトセンター受付サービスを開始 ～「ガス設備調査 訪問日時の変更」受付の利便性向上～<br>➢ ドローンを活用したインフラ点検ソリューションを提供する株式会社ジャパン・インフラ・ウェイマークへの出資について<br>➢ 画像解析を中心に優れたAI技術を保有するベンチャー企業株式会社HACARUSへの出資について |
| 5月 | ➢ 福島天然ガス発電所1号機の営業運転開始について<br>➢ 大阪ガスによるグローバルベイス社の株式取得について<br>➢ IoTプラットフォームを活用したシャープとの機器連携の開始について～シャープ提供のスマホアプリでIoT対応ガス機器の操作が可能に～ |
| 6月 | ➢ 家庭用燃料電池エネファームによるバーチャルパワープラント（VPP）構築実証事業を開始～1,500台が“ツナガル”VPP実証～<br>➢ シンガポールSQC Investment Pte. Ltd.への出資によるベトナムでの産業ガス製造・販売事業への参画について |
| 7月 | ➢ ウィズプラン第3弾！「ウィズABEMAプラン」の受付開始について<br>➢ 自営等BWAシステムを活用したDX推進による現場業務の効率化 ～大阪ガス泉北製造所のスマートファクトリー化～<br>➢ IoT対応ツナガルde警報器「スマびこ」の発売と災害・防犯情報提供に関する大阪市、大阪府警察との連携について<br>➢ 「ハートフル弁当プロジェクト」の実施について ～新型コロナウイルスと戦う医療従事者の皆さまを応援～ |

※プレスリリース実施月を記載



10ページに、2021年3月期 第1四半期の主なトピックスをまとめています。

# II. 21.3期第1四半期決算と21.3期見通し

# 21.3期第1四半期実績I

| 連結：億円（）内は連単倍率 | A. 21.3期 1Q | | B. 20.3期 1Q | | A-B | (A-B)/B(%) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 売上高 | (1.27) | 3,172 | (1.24) | 3,350 | -178 | -5.3% | ガス販売量減、ガス販売単価低下等 |
| 営業利益 | (1.61) | 252 | (1.28) | 366 | -114 | -31.1% | ガス事業におけるスライド影響、ガス販売量減等 |
| 経常利益 | (1.40) | 320 | (1.10) | 414 | -93 | -22.6% | |
| 四半期純利益* | (1.20) | 216 | (0.98) | 286 | -70 | -24.5% | |
| EBITDA** | | 527 | | 604 | -77 | -12.8% | |

* 親会社株主に帰属する四半期純利益
** EBITDA＝営業利益＋減価償却費＋のれん償却費＋持分法投資損益

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| スライド差損益 | -5 | 52 | -58 | - | |
| スライド差損益控除後経常利益 | 326 | 361 | -35 | -9.8% | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 原油価格*** $/bbl | 32.2 | 71.5 | -39.3 | |
| 為替レート 円/$ | 107.6 | 109.9 | -2.3 | |

*** 21.3期1Q原油価格実績は、6月速報値までの平均

12

12ページに実績数値をまとめています。

# 21.3期第1四半期実績II

| 単位:億円 | 売上高 | | | セグメント損益* | | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | A.21.3期 1Q | B.20.3期 1Q | A-B | A.21.3期 1Q | B.20.3期 1Q | A-B | |
| 国内エネルギー・ガス | 2,251 | 2,520 | -269 | 190 | 309 | -119 | 利益:スライド影響、ガス販売量減等 |
| 国内エネルギー・電力 | 463 | 411 | +51 | 37 | 11 | +26 | 利益:卸電力取引の単価低下等 |
| 海外エネルギー | 145 | 111 | +33 | 6 | 9 | -3 | 利益:前年並み<br>時価評価影響を除くとフリーポートLNGプロジェクト商業運転開始、北米上流事業会社の新規連結影響等により増益 |
| ライフ&ビジネスソリューション | 497 | 490 | +6 | 31 | 35 | -4 | 利益:前年並み |
| 消去又は全社 | -184 | -184 | -0 | 26 | 18 | +8 | |
| 連結 | 3,172 | 3,350 | -178 | 292 | 385 | -92 | |

* セグメント損益=営業損益+持分法投資損益
**2020年4月に㈱ガスアンドパワー(国内エネルギー・電力)をDaigasガスアンドパワーソリューション㈱(国内エネルギー・ガス)に吸収合併。20.3期1Q実績はこの影響を考慮して算定

内、ヘッジ会計適用外のデリバティブ時価評価影響
21.3期1Q -40 , 20.3期1Q -4, 前年差 -35

13

13ページはセグメント別になります。

# 21.3期第1四半期実績III

| 連結:億円 | A. 21.3期 1Q末 | 20.3期 1Q末 | 20.3期 B. 期末 | A-B | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 総資産 | 21,868 | 20,423 | 21,404 | +464 | 現預金増等 |
| 自己資本 | 9,888 | 10,142 | 9,974 | -86 | |
| 有利子負債 | 8,419 | 6,891 | 7,540 | +879 | 資金調達等 |
| 在籍人員(人) | 20,942 | 20,689 | 20,543 | +399 | オージス総研G等 |
| 自己資本比率 | 45.2% | 49.7% | 46.6% | -1.4% | |
| (ハイブリッド社債考慮後*) | (47.5%) | (49.7%) | (48.9%) | (-1.4%) | |
| D/E比率 | 0.85 | 0.68 | 0.76 | +0.10 | |
| (ハイブリッド社債考慮後*) | (0.76) | (0.68) | (0.67) | (+0.09) | |

*発行済ハイブリッド社債1,000億円の資本性50%を調整

| 連結:億円 | A. 21.3期 1Q | B. 20.3期 1Q | A-B | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 設備投資 | 288 | 257 | +30 | |
| 減価償却費 | 234 | 219 | +14 | |
| フリーキャッシュフロー** | 146 | 459 | -313 | |

** フリーキャッシュフロー=営業活動によるキャッシュ・フロー(税引後営業利益+減価償却費等非現金支出)-品質向上投資による支出

14

14ページでは、資産、負債等について整理しています。

# 21.3期見通しI

| 連結：億円（）内は連単倍率 | A. 21.3期 見通し | | B. 21.3期 5/11見通し | | A-B | (A-B)/B(%) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 売上高 | (1.30) | 13,800 | (1.28) | 14,930 | -1,130 | -7.6% | |
| 営業利益 | (2.14) | 900 | (2.94) | 910 | -10 | -1.1% | |
| 経常利益 | (1.89) | 1,000 | (2.56) | 1,000 | - | - | |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | (1.74) | 715 | (2.43) | 730 | -15 | -2.1% | |
| EBITDA* | | 1,975 | | 2,000 | -25 | -1.2% | |

* EBITDA＝営業利益＋減価償却費＋のれん償却費＋持分法投資損益

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| スライド差損益 | | 27 | -35 | +63 | - | |
| スライド差損益控除後経常利益 | | 972 | 1,035 | -63 | -6.1% | |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 原油価格** | $/bbl | 41.8 | 65.0 | -23.2 | | 2Q以降 45.0$/bbl |
| 為替レート | 円/$ | 109.4 | 110.0 | -0.6 | | 2Q以降 110.0円/$ |

** 21.3期1Q原油価格実績は、6月速報値までの平均

15

15ページから19ページは、見通し関連をまとめています。

# 21.3期見通しII

| 単位：億円 | 売上高 | | | セグメント損益* | | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | A.21.3期 見通し | B.21.3期 5/11見通し | A-B | A.21.3期 見通し | B.21.3期 5/11見通し | A-B | |
| 国内エネルギー・ガス | 8,975 | 9,935 | -960 | 465 | 395 | +70 | 利益：スライド影響等 |
| 国内エネルギー・電力 | 2,310 | 2,410 | -100 | 150 | 110 | +40 | 利益：タイムラグ影響等 |
| 海外エネルギー | 790 | 875 | -85 | 180 | 305 | -125 | 利益：原油価格・米国金利の低下影響 |
| ライフ＆ビジネスソリューション | 2,235 | 2,260 | -25 | 215 | 225 | -10 | 利益：フィットネス事業の減益 |
| 消去又は全社 | -510 | -550 | +40 | - | - | - | |
| 連結 | 13,800 | 14,930 | -1,130 | 1,010 | 1,035 | -25 | |

* セグメント損益＝営業損益＋持分法投資損益

# 21.3期見通しIII

| 連結：億円（）内は連単倍率 | A. 21.3期 見通し | | B. 20.3期 | | A-B | (A-B)/B(%) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 売上高 | (1.30) | 13,800 | (1.26) | 13,686 | +113 | +0.8% | |
| 営業利益 | (2.14) | 900 | (1.83) | 837 | +62 | +7.4% | 海外エネルギー事業における増益等 |
| 経常利益 | (1.89) | 1,000 | (1.47) | 860 | +139 | +16.3% | |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | (1.74) | 715 | (0.93) | 417 | +297 | +71.1% | 前年度の海外上流事業における減損損失の反動等 |
| EBITDA* | | 1,975 | | 1,809 | +165 | +9.2% | |

* EBITDA＝営業利益＋減価償却費＋のれん償却費＋持分法投資損益

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| スライド差損益 | | 27 | 65 | -37 | - | |
| スライド差損益控除後経常利益 | | 972 | 795 | +176 | +22.3% | 海外エネルギー事業における増益等 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 原油価格** | $/bbl | 41.8 | 67.8 | -26.0 | 2Q以降 45.0$/bbl |
| 為替レート | 円/$ | 109.4 | 108.7 | +0.7 | 2Q以降 110.0円/$ |

** 21.3期1Q原油価格実績は、6月速報値までの平均

# 21.3期見通しIV

| 単位：億円 | 売上高 | | | セグメント損益* | | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | A.21.3期見通し | B.20.3期 | A-B | A.21.3期見通し | B.20.3期 | A-B | |
| 国内エネルギー・ガス | 8,975 | 9,737 | -762 | 465 | 531 | -66 | 利益：スライド影響、ガス販売量減等 |
| 国内エネルギー・電力 | 2,310 | 2,048 | +261 | 150 | 79 | +70 | 利益：電力販売量増、卸電力取引市場の取引単価低下等 |
| 海外エネルギー | 790 | 612 | +177 | 180 | 81 | +98 | 利益：フリーポートLNGプロジェクト商業運転開始、北米上流事業会社の新規連結影響等 |
| ライフ＆ビジネスソリューション | 2,235 | 2,194 | +40 | 215 | 196 | +18 | 利益：材料ソリューション事業の増益等 |
| 消去又は全社 | -510 | -906 | +396 | - | 1 | -1 | |
| 連結 | 13,800 | 13,686 | +113 | 1,010 | 890 | +119 | |

＊セグメント損益＝営業損益＋持分法投資損益

# 21.3期見通しV

| 連結:億円 | A. 21.3期末見通し | B. 20.3期末 | A-B | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 総資産 | 22,852 | 21,404 | +1,447 | 成長投資の進捗等 |
| 自己資本 | 10,568 | 9,974 | +593 | |
| 有利子負債 | 8,344 | 7,540 | +804 | 資金調達等 |
| 在籍人員(人) | 21,450 | 20,543 | +907 | Jacobi, オージス総研G等 |
| 自己資本比率 | 46.2% | 46.6% | -0.4% | |
| (ハイブリッド社債考慮後*) | (48.4%) | (48.9%) | (-0.5%) | |
| D/E比率 | 0.79 | 0.76 | +0.03 | |
| (ハイブリッド社債考慮後*) | (0.71) | (0.67) | (+0.04) | |

| 連結:億円 | A. 21.3期 | B. 20.3期 | A-B | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 設備投資 | 2,030 | 1,310 | +719 | 成長投資の進捗等 |
| 減価償却費 | 956 | 919 | +37 | |
| フリーキャッシュフロー** | 863 | 1,253 | -390 | 運転資本の増等 |
| ROA | 3.2% | 2.0% | +1.2% | |
| ROE | 7.0% | 4.2% | +2.8% | |
| EPS(円/株) | 172.0 | 100.5 | +71.5 | |
| BPS(円/株) | 2,541.7 | 2,399.1 | +142.7 | |

*発行済ハイブリッド社債1,000億円の資本性50%を調整
**フリーキャッシュフロー=営業活動によるキャッシュ・フロー(税引後営業利益+減価償却費等非現金支出)-品質向上投資による支出

# 21.3期第1四半期販売実績

*ガス供給件数＝取付メーター数 - 閉栓中メーター数(空家等) - 他社ガス供給件数
**用途別の差異要因はP.22・23に記載

## ■ ガス販売

| 45MJ/m³ | | A. 21.3期1Q | B. 20.3期1Q | A-B | (A-B)/B(%) |
|---|---|---|---|---|---|
| 個別 | ガス供給件数(千件、期末時点)* | 5,153 | 5,430 | -277 | -5.1% |
| | 新設工事件数(千件) | 25 | 23 | +1 | +5.8% |
| | 家庭用1戸当り販売量(m³/月) | 31.3 | 29.1 | +2.2 | +7.4% |
| | 家庭用** | 467 | 459 | +8 | +1.8% |
| | 業務用等** | 1,121 | 1,340 | -219 | -16.3% |
| ガス販売量合計(百万m³) | | 1,588 | 1,799 | -211 | -11.7% |
| 連結ガス販売量 | | 1,601 | 1,812 | -211 | -11.6% |

## ■ 電力販売(連結)

| | A. 21.3期1Q | B. 20.3期1Q | A-B | (A-B)/B(%) |
|---|---|---|---|---|
| 小売 | 1,121 | 869 | +252 | +29.0% |
| 卸等 | 2,164 | 1,914 | +249 | +13.0% |
| 国内電力販売量(百万kWh) | 3,285 | 2,783 | +501 | +18.0% |
| 低圧電気供給件数(千件、期末時点) | 1,375 | 1,077 | +298 | +27.7% |

## ■お客さまアカウント(連結)

| | A. 21.3期1Q末 | B. 20.3期末 | A-B | (A-B)/B(%) |
|---|---|---|---|---|
| お客さまアカウント数(万件) | 911 | 910 | +0 | +0.0% |

20

20ページは、販売実績をまとめています。

2021年3月期第1四半期の連結ガス販売量は、主に個別における業務用等の減少により、前年から11.6%減少の16億1百万m3となりました。
個別家庭用は、他社へのスイッチング影響がありましたが、気水温影響等により、概ね前年並みの4億67百万m3となりました。新型コロナウイルス感染症の拡大による、いわゆる巣ごもり影響が一定程度はあると考えられますが、気水温影響等との区分が難しく、具体的な影響は不明です。
個別業務用等は、新型コロナウイルス感染症の拡大影響等により、前年から16.3%と大きく減少し、11億21百万m3となりました。

電力販売量は、新規需要開発や福島天然ガス発電所の営業運転開始等に伴い小売、卸等の販売量が共に増加したことにより、前年から18.0%増加の32億85百万kWhとなりました。
低圧電気供給件数は、2020年6月末時点で137万5千件となっています。

# 21.3期販売見通し

*用途別の差異要因はP.22・23に記載

## ■ ガス販売

| 45MJ/m³ | | 21.3期 5/11見通し | A. 21.3期 見通し | B. 20.3期 実績 | A-B | (A-B) /B(%) |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 個別 | 家庭用* | 1,770 | 1,798 | 1,798 | -0 | -0.0% |
| 個別 | 業務用等* | 5,552 | 5,200 | 5,526 | -326 | -5.9% |
| ガス販売量合計(百万m³) | | 7,322 | 6,998 | 7,324 | -327 | -4.5% |
| 連結ガス販売量 | | 7,358 | 7,034 | 7,362 | -329 | -4.5% |

## ■ 電力販売(連結)

| | 21.3期 5/11見通し | A. 21.3期 見通し | B. 20.3期 実績 | A-B | (A-B) /B(%) |
|---|---|---|---|---|---|
| 国内電力販売量(百万kWh) | 16,567 | 16,567 | 13,189 | +3,378 | +25.6% |

## ■お客さまアカウント(連結)

| | 21.3期末 5/11見通し | A. 21.3期末 見通し | B. 20.3期末 | A-B | (A-B) /B(%) |
|---|---|---|---|---|---|
| お客さまアカウント数(万件) | 930 | 930 | 910 | +20 | +2.2% |

21

21ページは、2021年3月期の販売見通しになります。

2021年3月期の連結ガス販売量見通しは、第1四半期に顕在化した新型コロナウイルス感染症の拡大影響等を織り込むことで、前年から3億29百万m3減少の70億34百万m3となる見通しです。

その他の見通しについて、前回見通しからの変更はありません。

以上で、私からの説明を終わらせていただきます。

# 家庭用ガス販売 21.3期第1四半期実績、21.3期見通し

## 21.3期1Q実績

| | 対前期 | 備考 |
|---|---|---|
| 調定件数 | -3.8% | 他社へのスイッチング等 |
| 気水温影響 | +5.6% | 平均気温19.8度（対前年同期 +0.0度） |
| その他 | -0.0% | ガス機器の高効率化、世帯人数減少等 |
| 合計 | +1.8% | |

## 21.3期見通し

- 平年気水温を前提とした気水温影響の反動による増加、離脱影響等により、前年並みの1,798百万$m^3$を見込む。

# 業務用等ガス販売 21.3期第1四半期実績、21.3期見通し

## 21.3期1Q実績

| | 対前期 | 備考 |
|---|---|---|
| 需要開発 | +0.6% | 設備導入、燃料転換等 |
| 気水温影響 | +0.1% | |
| 設備稼働増減 | -10.6% | 新型コロナウイルス感染症拡大の影響等 |
| 個別要因 | -5.9% | 特定のお客さま先での減少、他社へのスイッチング等 |
| その他 | -0.5% | |
| 合計 | -16.3% | |

## 21.3期見通し

- 新型コロナウイルス感染症の拡大影響等を、21.3期1Q実績をもとに一定程度織り込むことで、前年比-5.9%、326百万$m^3$減の5,200百万$m^3$を見込む。

# III. 参考資料

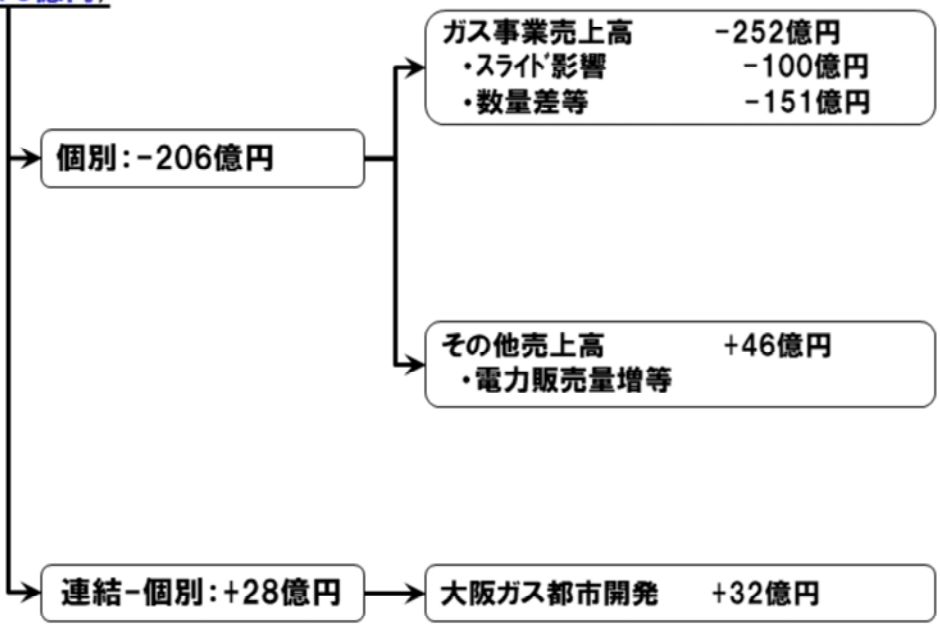


24

# 21.3期第1四半期の売上高差異(対前年)

20.3期1Q → 21.3期1Q (差異)

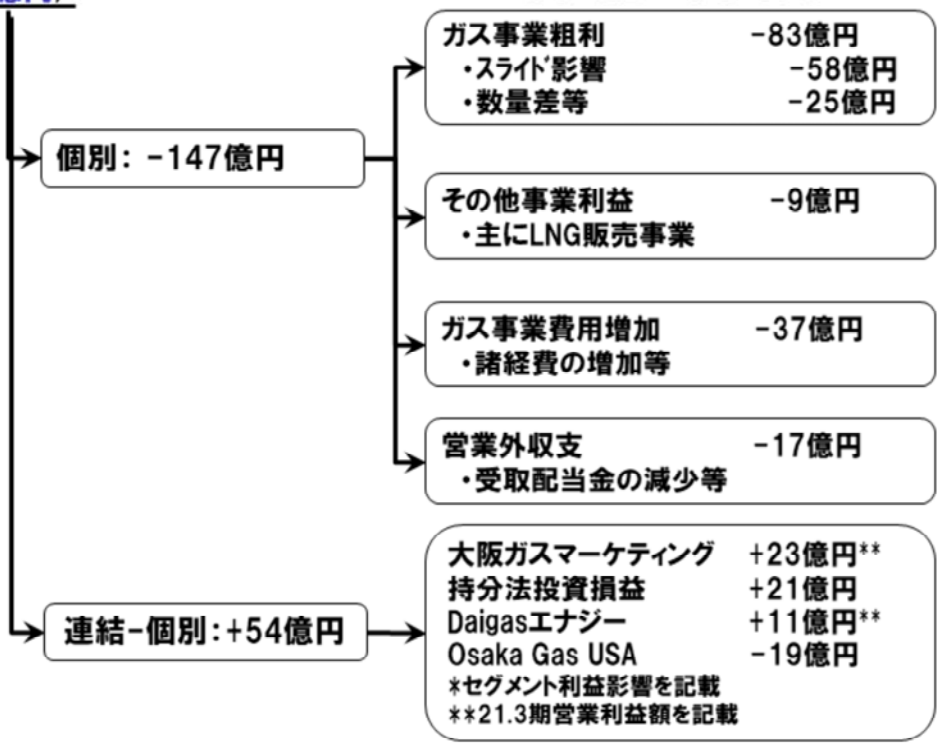
3,350億円　3,172億円 (−178億円)



# 21.3期第1四半期の経常利益差異（対前年）

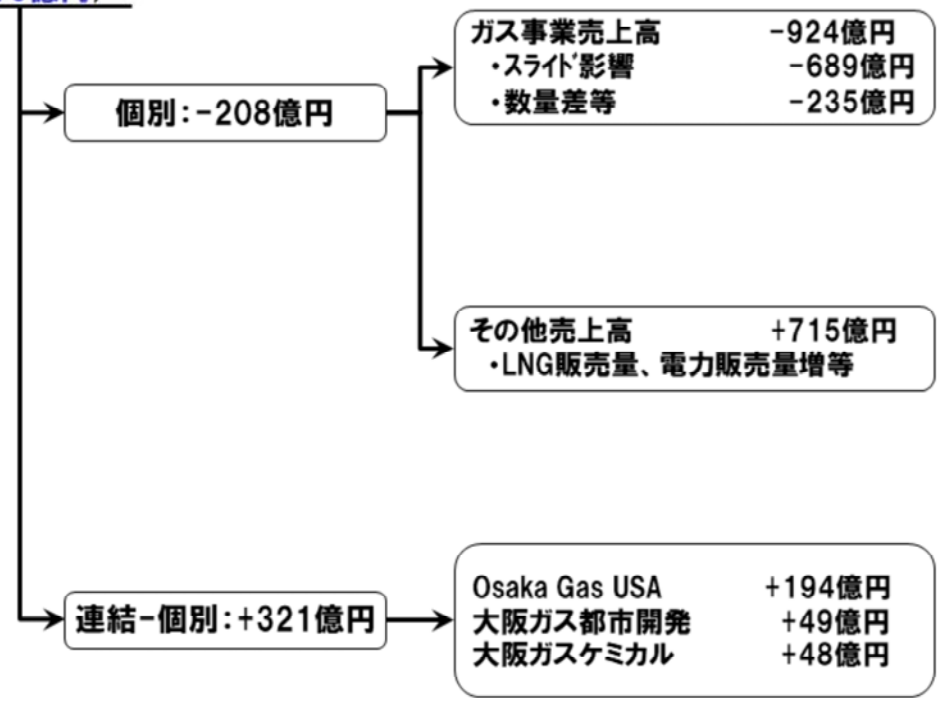
20.3期1Q　→ 21.3期1Q （差異）
414億円　　320億円 (−93億円)

＋－の符号は利益への影響を表す。



# 21.3期見通しの売上高差異(対前年)

20.3期　→ 21.3期見通し(差異)
13,686億円　13,800億円 (+113億円)

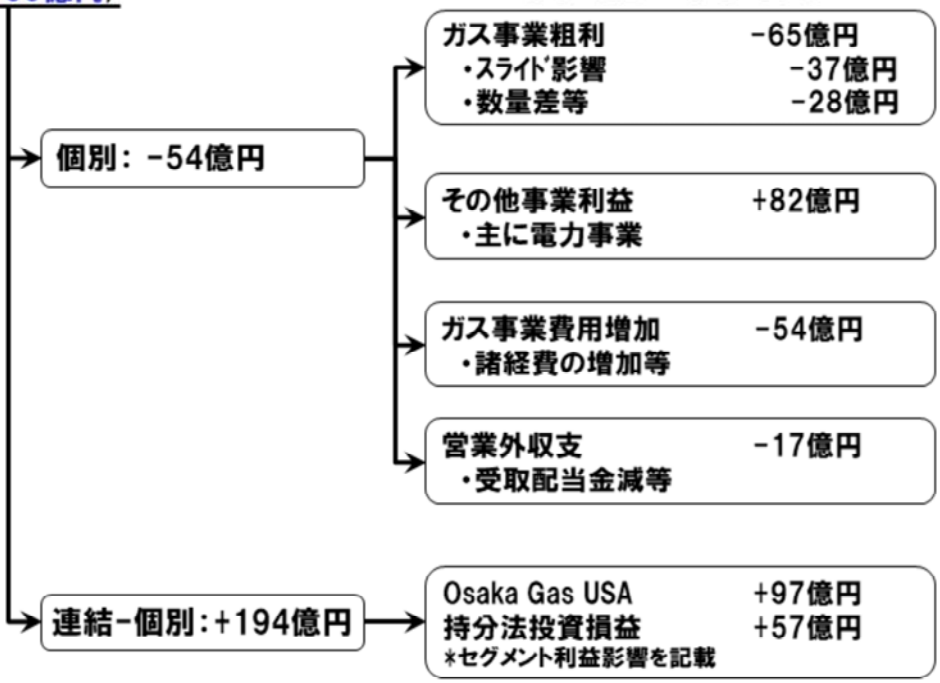


# 21.3期見通しの経常利益差異(対前年)

20.3期　→ 21.3期見通し（差異）

860億円　1,000億円　(+139億円)

＋－の符号は利益への影響を表す。



# 年度見通しに対するリスク要因

- **気温・水温**
  - 気・水温1度の変化に対し、家庭用ガス販売量は、春秋期約7%・夏期約8%・冬期約6%変動する可能性がある。
- **原油価格**
  - LNG価格が原油価格にリンクすることなどから、原油価格+1$/bblの変化に対し、21.3期の連結経常利益は約-6億円変動する可能性がある。
- **為替レート**
  - LNG価格が米$・円の為替レートにリンクすることなどから、為替レート+1円/$の変化に対し、21.3期の連結経常利益は約-5億円変動する可能性がある。
- **原料費**
  - 原料費調整制度によって、中長期的には原料費の変動はガス料金に転嫁されるが、反映までのタイムラグや原料調達先の構成によって、業績に影響を与える可能性がある。
- **金利**
  - 金利+1%の変動に対し、21.3期の連結営業外費用が年間+19億円変動する可能性がある。

以　上